

令和5年度(2023年度) 学校評価総括表 【伊丹市立有岡学校】

教育目標		心身ともに たくましく 感性豊かに 主体的に行動できる子							
重点目標		・学力の向上・豊かな心の育成・健康で安全な生活作り・教職員の業務改善(子どもと向き合う時間の確保)・学校運営協議会の充実							
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
学校教育	【確かな学力】の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、読書力の向上を図る。	・業間休みに図書室を開放したり各学年・クラスで常備図書を増やしたりする等、図書環境を充実させる。 ・各教科で読書力を高めるために記述・説明する活動を充実させる。 ・根拠を基に考え、他者と交流しながら考えを深める学習をしていく。 ・授業のめあてを設定し、授業のふりかえりを書く習慣をつける。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。 ・5.6年で教科担任制による授業を実施する。 ・国語学習を朝のチャレンジタイムとして実施する。 ・朝学習の時間に読書や本の読みきかせ、漢字学習を取り入れる。 ・課題で学ぶ問題解決的な学習を他教科にも広げていく。(自分の考えを持つための問題解決学習のあり方)	・年間を通じて、事前研究会事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・教師全員が一授業を校内で公開する。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい。」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「先生は教え方について工夫をしている。」と回答する児童が90%以上になる。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ、観察・実験の結果を整理し、考察する活動を実践している。(ノートや学習カードの活用) ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。 ・自主学習を利用して予習復習の習慣をつける。 ・自主学習において、自分が興味を持って取り組んできたがばりしを認め、評価する。 ・授業の中に、実際に触れたい身の回りのものを取り入れたりする。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。	・本の貸出冊数を2冊から3冊に増やすことで月々の読書冊数は増加した。 ・教員担任制により、教材研究にける時間を確保し、授業の質を向上させることができた。 ・各種研究会について職員73%が授業に生かしているが評価した。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が90%で、目標を達成できた。 ・保護者は「先生は基礎的な学力(読み・書き・計算等)をつけるように努めている」という認識に96%が肯定的に評価している。 ・学習習慣や生活習慣が確立されていない児童が一部見受けられ、学力差が広がっている。 ・見たことや考えたことを文章にすることや、話し合いなど言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業の見直しを示したり、視覚による教材提示をおこなうなど、授業においてユニバーサルデザイン化を進めた。 ・全児童が学習状況調査より、問われている内容に即して解答したり、根拠強く最後まで取り組むのが難しい児童が見受けられた。 ・理科では、問題解決学習を重視して取り組んだ結果、進んで課題解決の方法を考えたり、意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・保護者と連携し、家庭学習で繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが広がる意識につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、宿題の出し方や評価の仕方を工夫し改善する必要がある。	A	・本の貸出冊数を2冊から3冊に増やすことで月々の読書冊数は増加した。 ・教員担任制により、教材研究にける時間を確保し、授業の質を向上させることができた。 ・各種研究会について職員73%が授業に生かしているが評価した。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が90%で、目標を達成できた。 ・保護者は「先生は基礎的な学力(読み・書き・計算等)をつけるように努めている」という認識に96%が肯定的に評価している。 ・学習習慣や生活習慣が確立されていない児童が一部見受けられ、学力差が広がっている。 ・見たことや考えたことを文章にすることや、話し合いなど言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業の見直しを示したり、視覚による教材提示をおこなうなど、授業においてユニバーサルデザイン化を進めた。 ・全児童が学習状況調査より、問われている内容に即して解答したり、根拠強く最後まで取り組むのが難しい児童が見受けられた。 ・理科では、問題解決学習を重視して取り組んだ結果、進んで課題解決の方法を考えたり、意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・保護者と連携し、家庭学習で繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが広がる意識につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、宿題の出し方や評価の仕方を工夫し改善する必要がある。	・チャレンジタイムは、内容を限定せず、弾力的に運用できる時間とすることが望ましい。引き続き、週3回のチャレンジタイムを行う。短い時間で確実に進めることができるような教材を工夫する。 ・R6年度の市指定研究発表会に向けて、学校全体での協働体制を工夫し、本校の課題に即したテーマを設定し、さらに授業改善の意識を高める。 ・算数では、引き続き具体物を使って、理解を深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・家庭の状況に合わせた家庭学習の定着に向けて宿題の出し方、保護者への働きかけを工夫していく。 ・引き続き図書室の利用を促すようなイベントや図書紹介をしていく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れたり、ポラテアによる読み聞かせを行ったりする。 ・学習指導要領でめざす主体的、対話的で深い学びに向けて、各教科の学習内容で、児童の理解や思考の過程を重視し、指導者とともに、それに即した具体的な指導計画(教材・教具・発問・学習形態等)をしっかりと立案して授業に臨む。 ・授業の初めに目標を明確化し、それに対応した振り返りを行う。 ・学習マップを作成することにより、子どもも教師も授業の進捗や理解の程度を把握し、必要に応じて学習の進め方を調整し、見直しをもつて学習を進められるようとする。 ・今年度学力学習状況調査から明らかになった課題をもとに、授業の中で根拠をもとに相手に伝わるように表現する力の向上に向けて、作成した学力向上プランを実践して	・授業改善において誰一人取り残さない取組は評価出来るが、今後具体的な内容を提示する必要がある。 ・学力向上には各家庭での協力が必要であるが、家庭学習が充実出来るように各家庭の状況に応じた配慮をお願いしたい。 ・授業の様子を見る限り、よい環境で授業が行われていると感じる。 ・読書活動は充実していると思う。 ・日々のノートや読書感想文など、書き方の指導を行い、自己表現する力を育ててほしい。 ・長期休みを含め、宿題の量や質が適切なのか、家庭学習が定着しているのかの検証は必要である。 ・オンラインイベントを引き続き行っていただきたい。 ・カリキュラム表も6年間を見直し、分りやすくなれば良いと思う。 ・九九道場など、地域連携も進めながら学力差・個人差を小さくする取組も考えていただけると良いと思います。
		【新しい時代に対応した教育】の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・高度情報通信社会を築いていく子どもたちに、主体的に生きていく力を育てる。 ・情報研修会などを通して、情報コミュニケーション技術に対する職員の技能向上に努めると共に、本校の情報管理ならびにシステムの合理化をすすめていく。 ・電子黒板・書画カメラ・タブレット端末などのICT機器の活用をすすめる。	・タブレットの活用を進める。 ・スクリーンタイム、マイシート等のアプリを、学習のねらいに即して活用する。 ・体育で自分の動きを動画で確認したり、改善点を記録したりして効果的にタブレットを活用する。	・授業の中でICTを活用することができたと答える職員が90%を超える。 ・欠席連絡や学級閉鎖でも、タブレットを用いてスクリーンタイムやzoomを利用する。	B	・授業の中でICTを活用することができた職員が95パーセントとなった。また、欠席児童や、学級閉鎖などの際にもタブレットを学習に活用できた。 ・スクリーンタイム、ドリルパーク、zoom、学年に応じたアプリ等、各学年でタブレットの使用頻度が上がった。	・授業の中で効果的なICTの活用方法(オンラインを含む)を職員間で研修することで、活用へのさらなる意識を高める。さらに、多くの職員が活用できるようにするための研修を行う。 ・家庭学習プリント配信システム(スクリーンタイム)や、ドリルパークの利用を進める	・学校に登場出来ないときの家庭でのタブレット利用は効果的だと思う。 ・機器の老朽化や学習が滞るなど、全児童がよい環境で学習が進められるようにしていきたい。 ・この1年間のデジタル化の進捗状況を伝えていただきたい。 ・時代の流れにあった職員研修を行っていただきたい。 ・タブレットの活用を、調べ学習やプレゼンなどの主体的な学習につなげてほしい。 ・行事案内など、全体的にペーパーレス化が進んだことは良かった。
		【豊かな心】の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校児童数を減少させる。 ・命を大切に児童を育てる。	・授業で実際に経験したりふれあったりする機会を増やして意欲的な学びにつなげる。 ・いじめアンケートを実施し、実態に応じた対応をしていく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問を行うとともに、保護者や教員、児童の負担にならないよう、不登校児童数の目標を0人とする。 ・児童生徒指導研修会(いじめ等)を持つ。 ・毎月生徒指導研修会(いじめ等)を持つ。 ・毎月職員会で各クラスの子どもの問題について報告を行い、共通理解を図る。 ・児童がネットモラルを身につけられるよう学習をして、ネットによるいじめ被害や嫌がらせを防いでいく。	・いじめアンケートの結果や教職員がはじめと認識した事案について、早期発見、早期解決をする。 ・年1回スクールカウンセラーと全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数の目標を0人とする。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらった」と回答した割合が85%以上になる。 ・外部の講師を招いて児童へのネットモラルの授業を行う。	B	・生徒指導部を毎月行うとともに、問題行動報告会を、月1回、職員会議前に、共通理解した。 ・欠席が30日を超える児童は19人だった。登校支援の職員や関係機関との連携を密にしたり、ケース会議によりアプローチを工夫するなどの対策が必要である。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらった」と回答した割合が98%になり、目標を達成できた。 ・講師を招いて高学年児童を対象にネットモラルの授業を行った。	・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者と密に連絡をとり、職員間で情報を共有して、複数の職員で対応するなど、組織的な協力体制をさらに強化する。また、関係機関と随時連携を行う。 ・不登校児童へのリモート授業などの方法を考える。	・いじめ、不登校は、リテイク問題であるが、児童に一番よい対応をお願いしたい。 ・教職員が、不登校0人を目指して取り組みを進めていくことに期待します。 ・欠席がちな児童のフォローにもICT活用が有効的と思われるので、方法を調べてほしい。 ・対応方法のみでなく、未然防止に努め、関係機関との連携をもっと進めていただきたい。 ・豊かな心を持った児童の育成には、日々の生活での積み上げが必要だと考えます。
	【健やかな体】の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・冬場の縄跳び運動や外遊びを奨励する。 ・ホール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 ・スポーツの楽しさを体験させる。 ・放課後運動場を開放し、体力向上をめざす。 ・スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 ・各クラスにドッジボールやスポンジボール、大縄を配布する。 ・自分の動きを動画を見たり確認したり、改善点を記録したりして効果的にタブレットを活用する。	・年間を通じて児童生徒の委員会を中心とした全校ドッジボール大会等を取り入れる。 ・大縄大会を行う。 ・体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れる。 ・タブレットを体育の授業にも取り入れる。	B	・遊具遊びを体育の準備運動や体育の切り替えに組み入れた。また、子どもたちがスポーツや活動に意欲的に参加できるよう、市教委と連携し、スポーツストのわらわら、やり方を教員が熟知するとともに、冒険教育の道具や校庭の遊具の老朽化による危険を防ぐ対策も必要である。 ・児童生徒の委員会を中心とした、ドッジボール大会、けいどう大会を行ったりして、スポーツの楽しさを体験することができた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みに身体全体を、各クラスに配布されたボールを使った道具を使った遊び遊びが児童が増えた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・体育の時間に持久走を取り入れることが増えた。 ・体育の時間にもタブレットを活用する場面が増えつつある。体育の授業研究においても学びの蓄積に役立っていることができた。	・サーキットトレーニング、持久走等のさらなるプログラム開発をすることで、児童にとって楽しく、魅力あるものに、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・遊具の補修改善を進める。 ・児童生徒の委員会活動で、楽しんで体を動かす活動や行事を業間休みに組み込んでいく。 ・体力向上を自覚したプランを立て、学校全体で取り組む。 ・体育の授業において、より効果的なタブレットの活用方法を考えていく。	・外で体を動かす機会を増やし、楽しく運動が出来るような環境を整える。スポーツ大会等も続けていきたい。 ・スポーツテストでは、児童の力が十分に発揮出来るようお願いします。 ・保護者や地域など巻き込んで、ドッジボール大会などできないのでも、楽しんで活動や行事を業間休みに組み込んでいく。 ・業間休みなど、自ら進んで体力向上させようとする児童をこれからはもっと進めていただきたい。 ・誰もが楽しんで身体を動かすために一人一人に応じた工夫を今後も続けてください。 ・食育について、「自分の健康は自分で守る」を小学校時代から伝えていくことが大切だと思います。	
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・自分の将来を見据え、自ら学び続ける心豊かな児童を育てる。	・キャリアパスポートを実施し、保護者にコメント記入を依頼する。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の授業を中心に、職業や将来の自分について考える機会を増やす。	・保護者アンケートの「学校に、子どものことについて相談できる。」の項目で90%以上を達成する。	B	・キャリアパスポートを実施することにより、キャリア学習への意識づけや保護者への啓発につながった。 ・保護者アンケートの「学校に、子どものことについて相談できる。」の項目で、90%が肯定的に評価している。	・保護者がより学校への相談がしやすくなるような体制作りに取り組む。	・子どもたちは、今が将来につながる大切な時期だと、様々な活動を通して理解させることが必要だと思う。 ・保護者の相談窓口としてネットの活用をしてはどうか。 ・保護者だけでなく、子どもが相談できる場が学校外にあれば良い。 ・児童や保護者のために、キャリアパスポートを上手く活用してほしい。	
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・特別支援学級に在籍する児童や各学級の配慮を要する児童についての理解を深め、励まし合い、助け合って、ともに伸びようとする人間性豊かな児童を育てる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を探る取り組みを進める。 ・特別な教育的支援を必要とする児童に対応するための支援体制を作っていく。	・月1回の特別支援部会と6年生の進路(6月)と転籍に関わる教育支援委員会の実施。 ・特別な配慮を要する児童の特性理解と支援方法の理解のための研修を行う。 ・校内特別支援研修会を行う。 ・外部講師を招き、インクルーシブ教育、合理的配慮について理解を深める研修会を実施する。 ・特別支援学級の支援体制の再構築のため、学校園コンサルテーションを活用する。	・職員アンケートにおいて、「特別支援部会等が、効果的に機能し、その推進を図っている」と90%以上が回答する。	B	・児童一人ひとりに合った指導をするように心がけた。 ・交流担任・保護者・たんぽぽ担任との連携、情報共有に努めた。 ・職員アンケートにおいて、「特別支援部会等が、効果的に機能し、その推進を図っている」と83%が回答し、目標を下回った。	・部会や研修を通じて、校内における特別支援の必要な児童の共通理解を一層深めていく。 ・児童に対し、適切な合理的配慮を行うための研修会を実施していく。 ・巡回相談、学校コンサルテーションを積極的に活用していく。	・子どもたちの生活の様子や行動特性など、先生方で共通理解を随時深めていただきたい。 ・伊丹市PTA連合会では、特別支援学級の交流会を年1回行っています。そういった場の活用をしてはどうか。 ・教師と保護者との連携強化をお願いします。 ・学校と家庭、福祉が連携する「ライオンクラブプロジェクト」を推進していただきたい。	
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・夏期研修を行う。 ・校内自主研修を行い、授業や学級経営力を高める。	・一人一授業を校内で公開し、授業力の向上に役立てる。 ・学年ごとに教科横断的視点を取り入れた授業研究をする。講師の先生に指導助言を受け、研究を深め、発表する。 ・教職員同士で授業や学級経営について学び合う、ありんこcafeを実施する。	・職員アンケートにおいて「研修や研究が授業に生かされている」と回答が90%以上になる。	B	・職員アンケートにおいて「研修や研究が授業に生かされている」と回答が73%にとどまった。	・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間及び教材研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする学級づくりを目指した自主研修会を行っていく。	・子どもたちの学力向上をはじめ、教員の資質向上のために、現状に即した研修会の実施をお願いします。 ・教職員・児童・保護者とのコミュニケーションを大切に、引き続き信頼関係を構築してほしい。	
	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・学校便り、ホームページ等学校から情報を発信する。 ・授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。	・PTAの学力向上委員会と連携し、放課後児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学校運営協議会を窓口とし、学校と保護者、地域が一体となって児童を育てる。 ・教育課程に位置づけて、地域の人材を活用した授業を行っている。 ・有岡小学校区まちづくり協議会と連携する。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守るなどなどのマナーや生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。 ・学校だよりを月1回以上発行し、学校の情報を保護者に発信する。 ・学校ホームページを週1回以上更新し、学校の情報を発信する。 ・学校評価を学校改善に活かす。 ・参観日やオープンスクールを増やしていく。	・水曜広場を月1回以上開催する。土曜学習を月1回以上開催する。 ・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを週1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が93%以上になる。 ・土曜学習を10回実施し、また漢字検定は今年度2回実施し、多くの児童が受検した。 ・登下校の安全指導や生活規律、あいさつなどについて、地域や保護者等協力を得ることができた。	A	・学校便りについては、月1回以上発行した。ホームページを週3回以上更新し、学校生活を確立し、基礎学力の定着のため内容の充実を図る。 ・学校便りに月1回以上発行する。 ・自校のホームページを週1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が92%となり、目標を上回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が93%以上になった。 ・土曜学習を10回実施し、また漢字検定は今年度2回実施し、多くの児童が受検した。 ・登下校の安全指導や生活規律、あいさつなどについて、地域や保護者等協力を得ることができた。	・水曜広場や土曜学習の人材と時間を確保し、基礎学力の定着のため内容の充実を図る。 ・学校便りに月1回の行事をよりくわしく掲載する。 ・自校のホームページを定期的に更新するために、児童の活動の様子をその都度記録し、保存しておく。 ・学校運営協議会と連携し、教育活動や環境整備に地域人材の積極的な活用を行う。 ・指導計画をホームページに掲載するなど、学校の教育活動を広く地域に発信し、教育活動への理解と参画を得られるようにする。	・外部人材の積極的な活用をお願いします。ただし、依頼事項については、双方の思いの行き違いが生じることがあるので、進め方より優先化が必要であると思う。 ・人材依頼の時の「報連相」の徹底をお願いしたい。 ・学校運営協議会や地域にうまく発信できるツールの確立が必要ではないか。 ・地域として協力したいが、学校の行った事が分りづらい。情報発信の必要性を感じる。 ・地域の方との交流がもっと必要であると感じる。 ・学校だよりははじめ、情報の可視化をしていただきたい。	
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・全校児童が、健康で安全な学校生活を営むために必要な環境整備を行う。 ・児童一人ひとりが、様々な危険から身を守り、様々な行動がとれる能力と態度を身につけさせる。 ・年間を見通して、行事の精選を行いスムーズな行事計画をたてる。	・業務改善に取り組む、放課後の教材研究の時間を増やす。 ・会議の開始終了時刻を設定し、スムーズに進行し、勤務時間内に会議を終わらせる。	・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答が90%以上になる。	B	・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答は78%だった。 ・時間短縮を行っているが、長引いてしまうことがあった。 ・のびるからからの新見記録部を、来年度から3学期のみに変更する。	・会議では資料を事前配布し、部会では協議事項だけ話し合うようにして、時間短縮を目指す。 ・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間及び教材研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする学級づくりを目指した自主研修会を行っていく。	・下校時のマナーの悪さが目につく。学校、家庭での注意喚起が必要。 ・業務改善はよい取り組みであるが、職員の士気を高めることも考えるべきである。 ・子どもたちの放課後の遊び場がない状態である。公園ではボール遊びは禁止となっている。校庭の開放など子どもたちが安全・安心して遊べる場の提供を検討していただきたい。	

学校関係者評価総括
・学校、地域、保護者との関わりを多く持つ取り組みを進めていただきたい。
・多くの児童が楽しく積極的に授業に参加できているよい学習環境だと感じている。さらに、地域人材などを活用できればより魅力ある学校になると感じる。
・人とのコミュニケーションは、お互いの意思疎通をスムーズにすることが大切である。基本的な「あいさつ」が円滑に出来るとなると良い結果につながると思う。
・反省をもとに工夫された行事等が子どもたちの成長や保護者の信頼につながっている。来年度に向けて新たに気づかれた改善策を進めていただきたい。
・保護者アンケートの結果は数値的には評価に値する。しかし、100%を目標に、できるだけ近づけるように取り組んでほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
学力向上については、校内研究を中心に「意欲向上」をテーマに教師の授業改善と授業力向上をめざし、子どもたちに「わかる授業」を提供できるための研修会を行っている。ベテラン教員の退職や異動等により本校においても、若手教員が増加しているため、喫緊の課題として、学級経営の仕方や校務分掌の継承があげられる。今後、効果的な人材育成システムの構築が必要である。全国学力・学習状況調査の結果から、本校の課題の1つである「自己肯定感」について、地域とともに、子どもたちが活躍できる場を創出し、実体験をもとに「自己肯定感」を高めることが出来る環境づくりが必要だと感じている。新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことにより、学校行事や学校運営がスムーズに行われるようになってきた。地域とともに子どもたちを育てる視点を取り入れた取り組みを進めていきたい。学校運営協議会との連携については、今年度重点的に取り組んできたが、来年度は教職員とさらに連携を強め、「チーム有岡」の一員としての活躍の場を設けていきたい。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った